

近森病院附属看護学校 自己評価表

(評価期間: 2022年4月1日～2023年3月31日、公開年度: 2023年度)

大項目	中項目	コメント
1.教育目的		教育理念・教育目的は学校指定規則に沿った内容であり整合性がある。教育理念・教育目的は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し、看護・看護教育・学生観は教育内容に反映できている。また、教員に対する指針として、小委員会の活動から、学生観や教育観等を授業に反映できるような仕組みを作り実践している。また、教育理念、教育目的は、学校長の具体的な指針とともに学校パンフレット、学校ホームページなどに明示されており、オープンキャンパス、外部との会議、実習依頼など様々な場面で伝えられている。
2.教育目標		教育理念、教育目的・目標は、ディプロマポリシーに明示している人物像と具体的なカリキュラムには一貫性がある。ディプロマポリシーは、新カリキュラム構築にあたり教育目標を具現化し、卒業後に貢献できる看護師像が明確になり、指針となっている。
3.教育課程経営	教育課程管理者の活動	本年度は新カリキュラムが稼働した1年目であり、教育理念・教育目標達成に向けて一貫した活動ができるように説明を行ったり、模擬授業を行ったりと活動的な1年であった。
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	厚生労働省より提示された看護師養成所3年課程の考え方を基盤として当校の特徴を活かしたカリキュラムの構成となっている。新カリキュラムとなり、提示された臨床判断能力の基盤となる解剖生理学・病態生理学、地域・在宅看護論の考え方、ICTに強い学生の育成など強化する内容で編成した。また、1年生から3年生までの学びをカリキュラムマップにとし学生に説明を行い、効果が得られている。
	科目、単元構成	科目、単元構成に関しては、厚生労働省より提示された看護師養成所3年課程の考え方を基盤として当校の特徴を活かしたカリキュラムの構成となっており、教育内容も学習の手引きに掲載し学生に示している。当校の特徴を取り入れたカリキュラムであり、また、科目間のつながりも考慮し、学生の思考を配慮した内容となっている。
	教育計画	学生の習熟度に応じた科目の配置を考慮しており、オリエンテーションの機会を通して学生には説明を行っている。また、科目間のつながりを意識して時間割の構成となっている。学生からも科目のつながりが理解できたという声が聞かれている。
	教育課程評価の体系	単位認定など滞りなく行えた。2022年度からアセスメントポリシーにて教育課程の評価を行っている段階である。
	教員の教育・研究活動の充実	2022年度は、専任教員数や実習助手の採用があり、十分な人員配置が行えた。新しく採用された教員の模擬授業をはじめとし、授業案小委員会やポートフォリオ委員会などをはじめとして教員が自己や教員同士で学びあえるシステムを作成し稼働できた。
	学生の看護実践体験の保障	新カリキュラムになり、科目の内容に応じた実習施設を構築した。また、実習担当教員は基本的に専門領域の専任教員が担当しており、実習施設とも実習前に十分打ち合わせなどを行い学生の学びを保証している。また、年に1回の臨地実習指導者会議に実習施設の方に参加していただき当校の教育理念や教育内容は理解していただいている。他にも近森森グループの実習指導者会議などに参加しており、指導者さんたちの感じている学生の課題などを持ち帰り教務会議などで全教員に共有している。また、状況により学生たちにも周知している。実習前に看護職としての倫理綱領などを読み対象の権利の尊重、個人情報の取り扱い、実習に臨む姿勢などの説明を行っている。また、インシデントに関しては教員間、学生間、実習施設との共有は行っている。
4.教授学習評価過程	授業内容と教育過程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関連と発展	看護の基盤となる教養や基礎知識を修得する為に必要な授業科目を開設し、それぞれの科目の連携を保ち体系的に編成されている。 学習の手引きのシラバス欄に授業内容を明示し、教育内容との一貫性を確保している。全体のつながり、科目間、各授業内容の見直し、整合性の調整を図り、2022年度から新カリキュラム開始となった。科目間や各領域実習がつながりを持って学びが得られるように意識して学生に関わっている。授業計画・実習要綱などをきちんと定め、それに沿って実施している。今後十分な成果があげられているかどうかは新カリキュラム開始後の状況を3年間継続して見ていく必要がある。
	授業の展開過程	シラバスに各科目の学習目的・学習目標を明示し、授業内容に応じて授業形態を選択・工夫し、教育効果があがるようにしている。主体的に学ぶ力を育てるために、1年次よりアクティブラーニングを取り入れた授業を実施している。自ら考えグループメンバーで意見を出し合い、プレゼンテーションを行い、アウトプットすることで学びの共有が得られている。2022年度から電子書籍を取り入れたことで学生が知りたいことが直ぐに調べられ、学習効果が上がっている。又、授業案小委員会を立ち上げて定期的に学習会を行い、課題であった授業案作成についても取り組んでいる。
	目標達成の評価とフィードバック	前年度は授業評価の回収方法や各教員へのフィードバックの方法が確立していなかったが、2022年度からは授業終了後には事務局から評価表を学生に配布し、回収ボックスを設け回収、集計を行い、担当教員に返却するという方法が確立された。各教員は返却された評価結果をもとに、授業方法や内容、また学生の能力を多面的に評価できる評価方法の検討もしている必要がある。 また、学習の手引きには、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが明示されており、アセスメントポリシーによって学生の学習成果を可視化することで教育成果を評価している。 成績評価については、シラバスで評価内容・方法を明示すると共に、評価規準(基準)を提示し、教員間でも情報交換するなど公平かつ明瞭な評価を行っている。 単位認定に関しても、教務会議や学校運営会議で情報共有、検討し、公平性を保っている。
	学習への動機づけと支援	シラバスの内容や学生指導の内容は学習の手引きに明示されており、教員間、学生間で共通認識を行い、その内容をもとに指導、学習の意識づけを行っている。 また、アドバイザーによる定期的かつ個別の状況に応じた面談の実施により、学生の状況把握、関係性構築、学習支援に繋げている。

近森病院附属看護学校 自己評価表

(評価期間:2022年4月1日～2023年3月31日、公開年度:2023年度)

大項目	中項目	コメント
5経営、管理過程	設置者の意思・指針	管理者は、教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、養成所の管理運営等についての考え方をパンフレットや学習の手引きに明示している。管理者が明示した考えは、設置者が出席している学校運営会議で審議を行い、一貫性があるかを確認をしている。教職員は学校長便りや学校運営会議、教務会議にて設置者や管理者の考え方を理解している。
	組織体制	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するために職務分掌規程で職務権限や役割機能を明確にしている。学校運営に関わる重要事項は学校運営会議、教務は教務会議、教務以外の事項は職員会議と意思決定システムが明確になっている。教職員の意思が反映できる様に関係する各種委員会に参加して意思決定が出来るシステムを整えている。指定規則で定められている基準を遵守して、適切に学校運営を行っている。
	財務基盤	財政基盤を確保の考え方を明確にし、図書費や備品教材費などの予算を確保して、学習・教育の質の維持・向上につなげている。予算計画には、教職員それぞれの観点から要望を確認して、次年度に必要なヒト・モノを確保した上で収支計画を作成して、学校運営会議で審議、承認を得た上で予算執行をしている。ホームページに財務情報を公開している。
	施設整備	管理者は、学習・教育環境の考え方を明示し、その考え方にもとづいて、教育備品や施設設備を計画して実施している。医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、電子書籍を取り入れオンライン授業にも対応できる様、学内環境を改善することで、電子書籍による調べものや動画を取り入れた学習に繋げる事ができた。学籍管理のシステムで業務効率化を図る目的で授業資料を電子化することで印刷時間と印刷代が減少し、業務の効率化に効果を上げている。
	学生生活の支援	教員によるアドバイザー制度により学習面や生活面の支援で学習意欲継続を行っている。また、教員間で学生情報を共有し、家族との連絡等により家族と一体となった支援策を行っている。そして、カウンセラー(非常勤)が月2回、相談者として常駐し、悩みや問題を持つ学生対応にあたることで、退学率を低く抑えることが出来た。 入学時に支援制度や奨学金の説明会を開催、平日の日中は、学生が奨学金等や総合補償等を活用しやすい様な体制を整えている。実際に多くの学生が奨学金や支援制度を利用しており、学生の学修継続にも貢献して、コロナによる収入減少で休学や退学をしなければならない学生が出ない様にできた。その結果、コロナによる収入減少で学費が納付できず休学・退学した学生をゼロにすることが出来た。
	情報提供	関係者には、広報誌や後援会ニュース、学校長便りを通じて、情報提供を行っている。教育機関として公正かつ透明性の高い運営を実現し教育および学校全体の質的向上を図る目的で、学校評価結果(自己評価、学校関係者評価)や財務状況をホームページで情報公開を行っている。
	将来構想	養成所として将来構想をもとに、長期計画、短期計画、年間計画を立案し、学校運営会議で審議を行い、将来構想との整合性を保っている。
	自己評価	自己評価の意味と目的を理解し、知識と方法を明確にし、委員会にて自己評価をして、評価した自己評価は、学校関係者評価委員で再評価して頂き、看護師等養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。そして、自己評価の結果をホームページに公表して、自己評価で明確になった問題点は次年度の課題として改善に努めている。
6入学・広報活動	入学	教育理念・教育目的との一貫性があるアドミッションポリシーをもとに、入学試験委員会にて入学選抜方法の妥当性及教育効果の視点から分析や検証を行っている。また、入試結果と進級時GPAの関連資料を作成して、教育効果の分析に繋げている。
	広報活動	毎年、募集活動計画を策定して、入学生獲得の活動を展開している。パンフレットやホームページも見直しを行い、入学希望者に必要な判断材料を提供している。 学生募集活動として、県内の高校を訪問したり、公共機関等にパンフレットを設置し、そして、年5回、オープンキャンパスを開催、夏には帯屋町の大型ビジョンへ動画を公開し、より積極的な広報活動の試みをした。
7. 卒業・就業・進学		卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、6期生の集計は終了した。本年度よりリアセメントポリシーに沿って評価を行っており、卒業生のアンケートなどは今後行う予定である。本年度は、卒業生へのアンケート調査を実施するため小委員会を立ち上げたが、アンケートの実施には至らなかった。次年度は卒業生アンケートを実施し、分析を行い、課題を明確にしていく。 コロナ禍の影響で同窓会の開催や就職先的全訪問ができなかった。その中でも、同窓会役員とは連絡を取り合い、同窓会として誓いのセレモニーや卒業式などの式典に参加してもらい、継続的な関わりがもつことができた。 コロナ禍の影響で卒業生の活動状況や就職先との連携は思うように進まなかったが、実習施設となっている就職先や卒業生との交流は図ることができた。
8.地域社会活動	地域社会	地域社会のニーズの把握は、学校連絡会を通じた県内の教員間の連携、職業実践課程における外部委員との交流、近森会グループとの交流・連携を通じ行っている。地域への学校の情報発信は、学校ホームページやパンフレット、インスタグラムなど複数の手段を使い状況に応じ見直し実施している。地域社会との交流や貢献については、新カリキュラム以降、学生が看護の対象者を生活の視点で理解できる教育内容を取り入れフィールドワークや地域実習と地域社会とかかわる機会が増えている。また、献血活動をはじめボランティア活動も実施できるようになった。今後も、地域貢献という視点での学校づくりを行っていきたい。
9.研究		研究に関する教員の意識は高く、取り組むテーマの抽出は行っている。研究の取り組み進度は、計画的に実施することが難しい状況にある。経験豊かな教員の配置や文献検索等の環境は整っているが、時間の保障等には課題がある。2022年度は研究結果の分析が行え、発表準備を行っている。看護学雑誌等への投稿はできており、今後も継続して実施したい。